

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース

現在私は小学校の教員をしています、それも中学校の経験が大きく影響しています。自分が成長できた喜びを感じられたように、できるだけたくさん子どもたちに同じ思いを味わってほしい、その力になりたいという思いからです。

自分の思うようにならず悩むこともあります、子どもたちや保護者、同僚などの人とのつながりを大切にしながら、これからも頑張っていこうと思います。

前号に続いて、「彼」について。

Q. 十数年経った今、全体学習（みんなで語り合う人権学習）をどう思っているか？

大学卒業後、県外で教職に就いた彼。

その後、地元に戻り、小学校教員になります。

そしてこの春から、原点である母校の中学校に勤めることになりました。

中学時代、生徒会長だった彼に声をかけると、私の誘いを断ることなく、彼は人権劇の主演を引き受けてくれました。

そんな縁もあり、今も人権教育を推し進めていく大切な仲間の一人として活躍してくれています。

上の問いについて彼は、こうも記してくれました。

そしてもう一つ、全体学習が私にもたらしてくれたものは、“弱い自分と向き合う”意識です。自分の中の差別意識や卑屈さと向き合い、それをさらけ出す勇気と覚悟は並大抵のものではありませんが、前述のような、人とつながり、語り合う活動の中で、それぞれの悩みや思いに互いに共感し、心を開いた付き合いができるようになったように思います。

“相手を知るにはまずは自分から”このような意識が私の中に自然と芽生えてきました。そしてそれは、人とかがわる上で今でも心がけている言葉でもあります。

“弱い自分と向き合う”意識

人は弱い生き物です。そのことは多くの人が分かってるのに、自分の弱みを認められず、さらけ出すことを怖がります。

自分の弱さも、小ささも、未熟さも認め、さらけ出してしまえば、どんなに楽か。

そんな自分を、隠し、強がり、肩ひじ張って生きることが、どんなにしんどいことか。

そうでもしないと生きていけないのかもしれない。

でも、悩みや、苦しみや、悲しみが、当たり前に出せれば、どんなに救われるか。

どんなに楽か。

自分を語ることで、自分自身が救われ、癒やされていく。

聴いているだけなのに、友の胸の内を知ること、聴いてる自分までもが癒やされていく。

何かそこに、「共鳴」のようなものが響き合い、互いを励まし合っているように感じられることが幾度となくありました。

そして、いつしか、人を愛おしく思えるようになるのです。

人を好きになっていくのです。

私たちが求めている社会とは、そんな社会ではないでしょうか。

みんなで語り合う人権学習は——すべてを変える

うずしおランチ代表